

2018 年度学生生活調査（学修時間・行動調査）報告書

2019 年 7 月 29 日

医学部 I R 室

1. 調査概要

1-1. 調査目的

本学医学部学生の学修・生活に関する実態を調査することを目的とした。

1-2. 調査項目

調査項目は、生活時間（学修時間、行動調査）について、独立行政法人日本学生支援機構「学生生活調査」を参考にして作成した。

1-3. 調査対象

医学部 1～4 年生 479 名を対象とした。

1-4. 調査方法

2018 年 10 月 26 日～11 月 22 日において、講義後にマークシート形式で実施した。

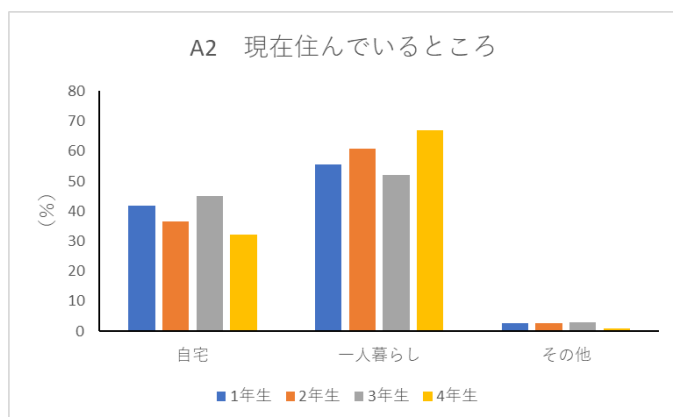
1-5. 回答者数と回収率

1 年生から 4 年生まで 431 名が回答した。内訳は、1 年生が 110 名（回収率 91.6%）、2 年生が 112 名（回収率 85.5%）、3 年生が 100 名（回収率 95.2%）、4 年生が 109 名（回収率 89.3%）であった。

2. 結果

I. 住居

住居（A2）に関しては、一人暮らしが 58.9%、自宅が 38.7%であった。

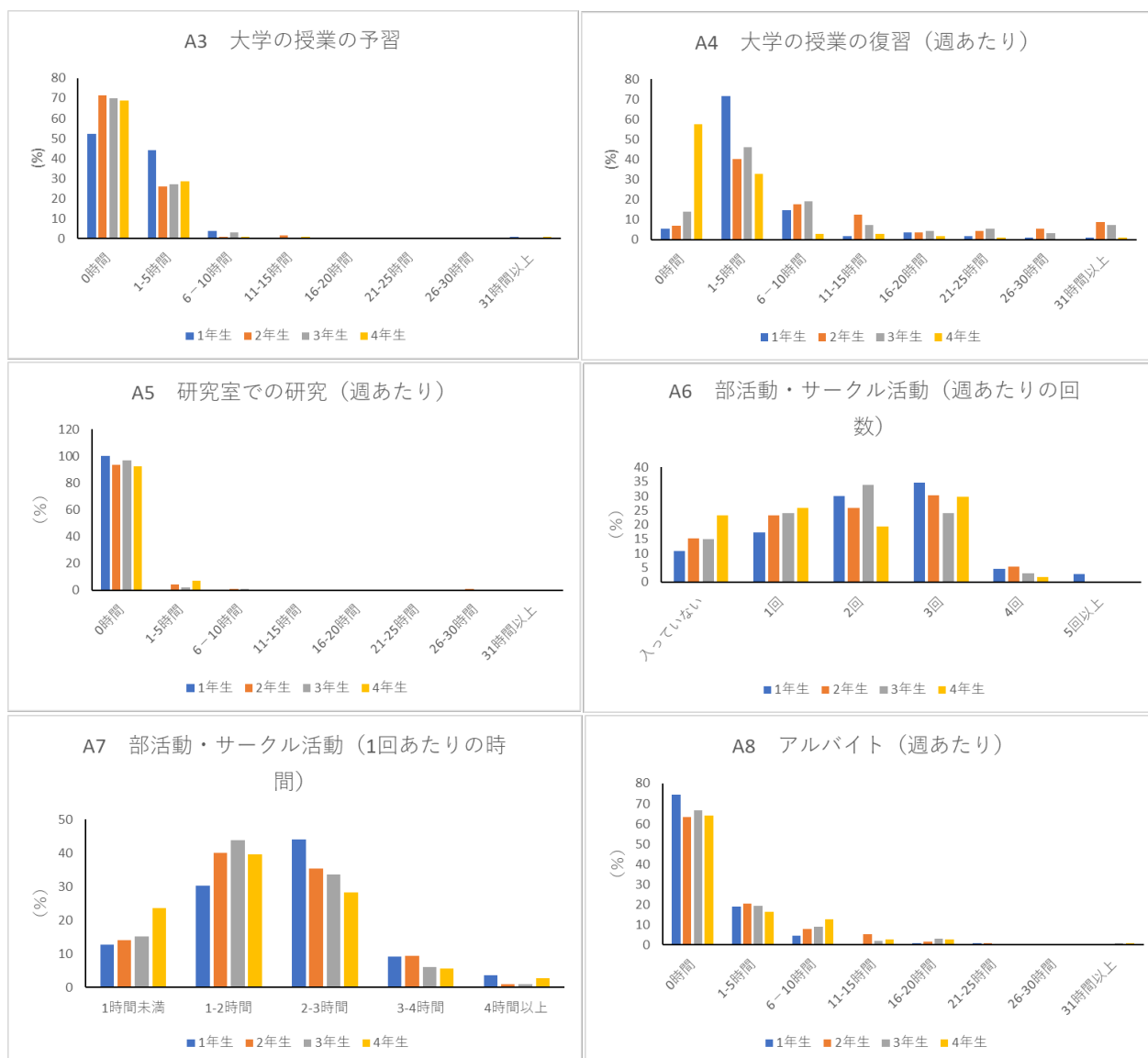


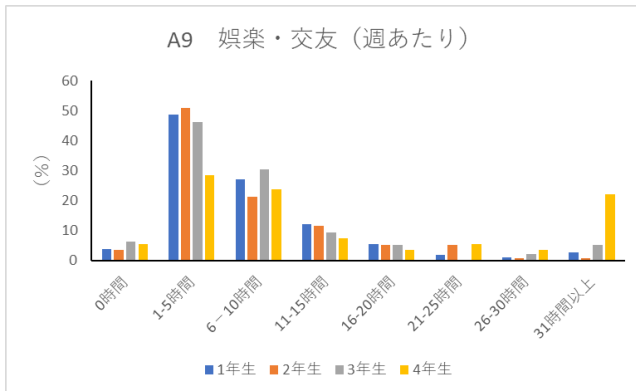
II. 学生生活の状況 (別紙1)

授業の予習にかける時間(週あたり)(A3)は、0時間が65.4%、1~5時間が31.3%、6~10時間が2.1%であった。復習にかける時間(週あたり)(A4)は、0時間が20.9%、1~5時間が46.9%、6~10時間が13.2%であった。4年生に関しては、63.0%の学生が復習にかける時間を0時間と回答した。研究室での研究(週あたり)(A5)は、0時間が95.8%であった。1時間以上(週あたり)研究を行っている学生は4.2%であった。

部活動(A6, A7)については、16.0%の学生が部活に入っておらず、73.8%の学生は、1~3回の部活動を行っていた。また、1回あたりの時間は、1~3時間で73.8%であり、3時間以上は9.7%であった。

アルバイト(A8)については、0時間が67.1%、1~5時間が18.8%であった。16時間以上の学生は3.1%であった。

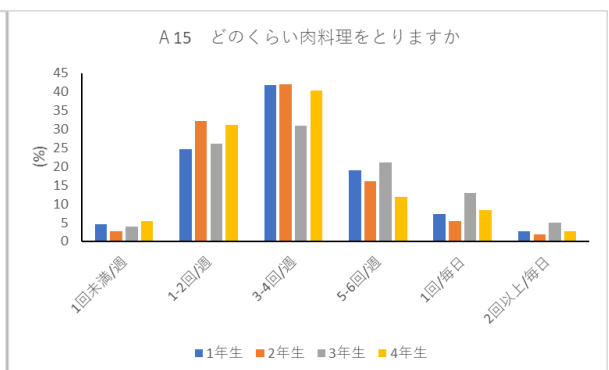
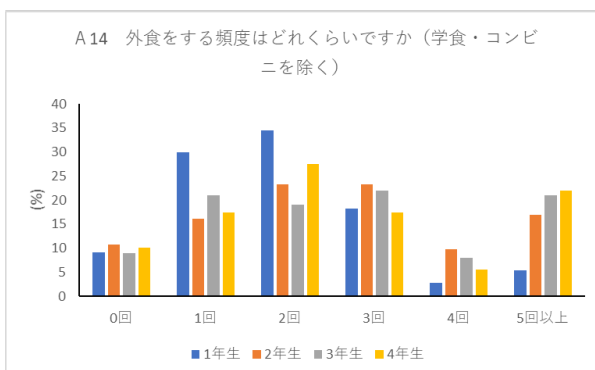
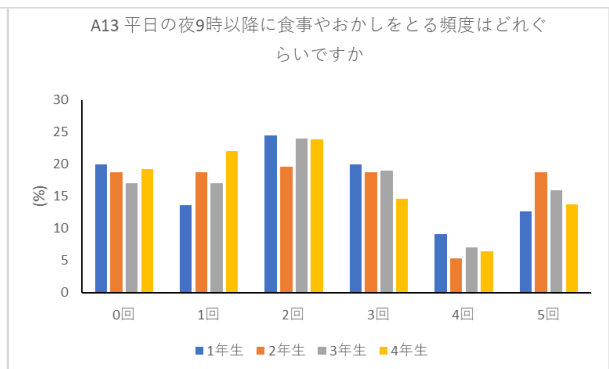
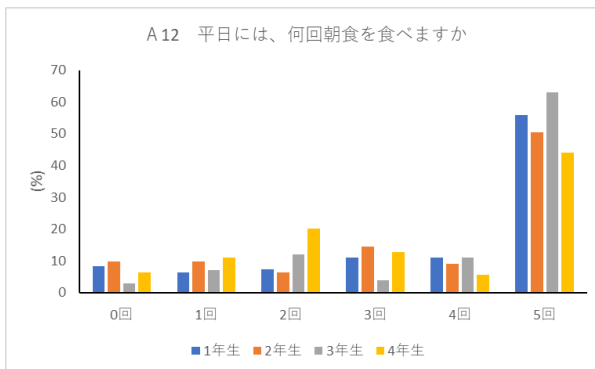


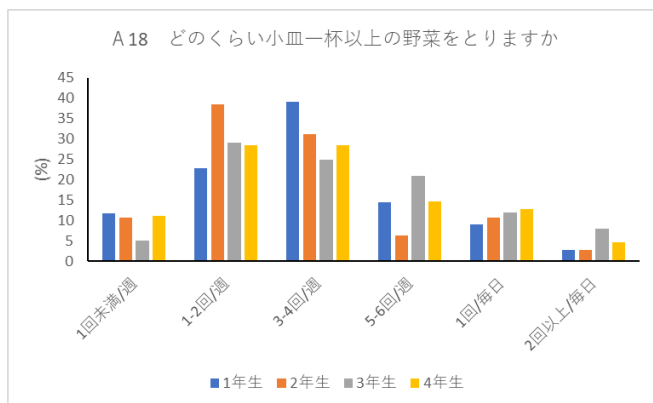


III. 食習慣

朝食の摂取状況（A12）は、毎日摂取する学生は、1年生 56.0%、2年生 50.5%、3年生 63.0%、4年生 44.0%であった。0～1回のみ摂取は、15.6%であった。

外食の頻度（学食・コンビニを除く）（A14）が5回以上の割合は、1年生 5.5%、2年生 17.0%、3年生 21.0%、4年生 22.0%であり、学年が上がるごとに外食の頻度が増加した。食事の副食（A15、A16）では、肉料理を週あたり3～4回摂取している人が39.0%であり、魚料理では週1～2回摂取している人が50.8%と最も多かった。また、野菜摂取（A20）に関しては、1回/日は11.1%であった。乳製品の摂取（A22）に関しては、1回/日が16.7%であった。果物摂取（A23）に関しては、1回/日が7.4%であり、1回未満/週の割合は27.9%であった。





3. まとめ

今回、学生生活調査を実施し、医学部学生1年生から4年生の生活実態を調査した。学生生活では、16.0%の学生が部活動には入っておらず、73.8%の学生は週1～3回を行っていた。学修時間として、予習や復習にかかる時間が短く、予習に関しては、0時間と回答する割合が非常に多かった。講義実施期間に予習や復習をするのではなく、テスト前などに短期的な学修を行っていることが推測できた。講義に関しては、レポートや課題がなく、おそらく、講義のみを聴講してその日の復習や次の日の予習をしていないことが考えられる。食生活に関しては、朝食摂取の欠食率が高く、毎日摂取する学生は約半数であり、野菜摂取に関しては毎日摂取する学生が11.1%であった。朝食会などを通して朝食の重要性を啓蒙する必要があると思われる。今後、引き続きデータを収集することで、学修・生活に関する実態を調査し、経年変化を検討していく必要があると考えられる。